

小学校作文の部：中央審査・砂防部長賞（地方審査・最優秀賞）

『こわかった大雨の日』

防府市立小野小学校
二年生 岡村 篤

七月二十一日、ぼくがすんでいるほうふ市に大雨がふりました。

少しして、テレビにほうふ市がうつって、土や木や石で道がふさがっていたり、家がうまっているところを見ました。その時、はじめて「土しゃ」と「土石りゅう」という言ばをしりました。

家の外を見ると、道が川になっていて、近くの川はまっ茶色で木もながれていて、どこまでが川なのか、どこが田んぼなのかわからないくらい水がふえていました。

おばあちゃんの家からぼくの家まで、おじいちゃんが車でおくってくれたけれど、川のような道を通ったので、すごくこわかったです。

それから、家のまえの道をきんきゅう車りょうがいっぱい通っていきました。空にはヘリコプターもとんでいました。ぼくは、はじめはきんきゅう車りょうがいっぱい見られてうれしかったけれど、山を見たら木がなくなって、茶色い道のようになったところがいっぱいあったので、びっくりしました。土しゃがながれたあとだと、おじいちゃんが教えてくれました。土しゃにうまって逃げられない人もいると聞いて、うれしかった気もちがこわい気もちに変わりました。土しゃくずれがあった山の近くにすむ友だちは大じょうぶかと心ばいになりました。

ぼくは、山がくずれることをはじめて知りました。ぼくは、雨がふっている時や雨がやんだ後は、大きい石がいっぱいあるところや、川の近くには行かないようにしようと思いました。それから、大人の話をよく聞いて、行動しようと思いました。

雨はふらないと困るから、大人の人、どうしたら山がくずれないか考えたり、あぶない時は早く教えほしいです。